

ウインターカップ 2025 静岡県予選 大会展望

中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

第 78 回全国高校バスケットボール選手権大会 (ウインターカップ 2025) 静岡県予選が令和 7 年 10 月 18 日に開幕する。11 月 8 日、9 日の静岡県武道館決戦で県代表が決まり、12 月 23 日から高校バスケの聖地・東京体育館および武蔵野の森総合スポーツプラザで行われる全国選手権大会へ出場する。今年は 2 年ぶりに男子の全国出場枠が「2」に増枠となり、藤枝明誠を筆頭にした優勝争いと「ウインター出場権争い」という 2 つの大きな興味が並び、さらに女子は大会連覇が続く浜松開誠館を脅(おびや)かすチームが現れるなど、男女ともに近年にない見どころ満載、展望する側にとっては予想が非常に難しい大会となる。

まず大会レギュレーションに関する確認をしておきたい。女子は例年通り 3 位決定戦を行わない完全ノックアウト方式のトーナメント制、優勝チームのみが全国の檜舞台を踏む。

一方、男子は一昨年同様ベスト 8 が決まった段階でブロック決勝を行い、勝った 4 チームが県武道館決戦の 3 日間で決勝リーグを戦い、上位 2 チームが全国切符を掴む。県内でバスケに励む高校生の誰もが憧れる聖地・県武道館でのプレー、女子はベスト 8 でその夢を果たすことが出来るが、男子は今年に限ってはベスト 8 止まりでは県武道館に辿り着けないので、まずは何としてでも 4 強入りを目指したい。4 強に入れば総当たりのリーグ戦となり、対戦順・相性・得失点・当日のコンディションなどさまざまな要素が入り乱れ、全チームに全国のチャンスが到来する。過去高校の大会では決勝リーグで数多くのドラマが生まれてきた。当然上位 3 チームが 2 勝 1 敗、または 2 枠目争いで 3 チームが 1 勝 2 敗で並び、得失点差で優勝・全国出場が決まったこともあったが、忘れられないのが今年の県新人女子決勝リーグ。初戦で勝った 2 チームが第 2 戦でともに敗れ 4 チームが 1 勝 1 敗で並び、全チームが悲願の優勝から東海新人出場すら逃してしまう 4 位までの「天国と地獄」を味わう可能性を秘めて最終戦が同時にスタート、互いに目の前の試合の勝利を掴むのは当然だが隣のコートで戦うライバルの勝敗を気にしながらの争いともなり、最後は該当チーム同士直接対決の勝敗で順位が決定し、さらにこの時はリーグ戦途中で約 10 年間続いた浜松開誠館の県内連勝が止まるというエポックメイキングな出来事も重なって一段とセンセーショナルな大会となったのは記憶に新しい。今回は県武道館のメインコートを使用するため試合の同時展開はできず、第 2 戦と最終戦は各 2 試合が時間差で行われることとなるが、男女とも例年以上に盛り上がる大会になることは必至である。

その他、通常の試合ではモルテンまたはミカサの 8 面体球を、県武道館シリーズからは全国大会同様モルテン製 12 面体球を使用、メディア情報としては今大会も県協会公式アプリで全試合の結果を速報、書籍では今年もオールカラーの大会特集号「D-sports SHIZUOKA」が発行され、同じく西部上位校を中心とした「Jr. Athlete PLUS」も無料刊行、最終 2 日間は例年同様トコちゃんねる静岡とウィンディにて全試合生中継、また男子決勝リーグ第 3 戦と女子決勝はバスケット LIVE でもライブ配信する。本稿執筆時点で地上波テレビ放送は決まっていないが、去年は静岡朝日テレビにて録画中継ながら深夜枠で 23 年ぶりに男子決勝が放送され、現在テレビ局と鋭意交渉中である。

現在今年で 4 年目となる U18 日清食品ブロックリーグも行われていて、県代表として藤枝

明誠(男子)と浜松開誠館(女子)が出場している。トップリークを含めたリーグ戦は今年からさらに進化し他地域との試合も積極的に編成され、本県も東海だけでなく関東や東北のチームと公式戦で対戦する機会を与えられた。今まで全国大会以外では交わることのなかった他地区の強豪との拮抗した試合を繰り返すことでますます総合力の完成度が確固たるものになることは間違いない。またユース・クラブチームも参加、グループ優勝すればトップリーク参入プレーオフ出場権が与えられることも選手の励みとなっている。今年トップリークが県内初開催、ブロックリーグも6回県内開催され、身近で全国レベルの試合が見られることはこの上ない幸せである。他のチームも県協会主催のU18リーグ2025静岡に参加して毎週末上位リーグ昇格を目指して切磋琢磨しており、バスケットに「リーグ戦文化」が完全に根付いたことは喜ばしい限りである。

さらにはこの夏東海国スポで少年男子が準優勝、秋に滋賀県で行われる国民スポーツ大会に5年連続で出場することになり、静岡県高校バスケの実力は確実に底上げされている。

大会展望の執筆に際して、今回も山口裕史県協会広報副委員長(矢崎部品(株))に協力していただいた。厚く御礼を申し上げますとともに、私の残された在任期間中に私が今まで培ってきた出来る限りのノウハウを伝授させていただき、いつか後継者として県協会広報委員会のしかるべき要職で活躍してくれることを心から願う。

【男子】

昨年の東山とウインター史上に残る歴史的な勝負を繰り広げてベスト8、現在この大会3連覇中、県内大会も10連覇中、県内連勝も72まで伸ばし東海総体でも中部大第一にダブルスコアで勝利して東海無敵を堅持、静岡県に貴重な「ウインター出場枠プラスワン」をもたらした藤枝明誠が本命である。その藤枝明誠を追いかけて2枠目の全国出場権、そして優勝をも狙う浜松開誠館が絶対的対抗馬、それを県総体3位から6位の静岡学園・静岡商業・浜松学院興誠・沼津中央が「実力伯仲」の横一線に並び追いかける展開が予想される。今年はずまず決勝リーグ進出を賭けたブロック決勝が大きな山場となりそうな予感がする。

左上のブロックは、藤枝明誠が圧倒的な強さを誇ることは言うまでもないが、昨年の県総体以来4大会連続でベスト8をキープ、特に昨年の県総体と今年の県新人では共に6位に食い込んだ城南静岡がブロック決勝で戦う展開が予想される。「藤枝明誠-城南静岡」と聞けばバスケファンにはたまらない好カード、4年前藤枝明誠に県内で最後に勝ったチームが城南静岡だからである。しかしながら昨年ベスト8、こちらも安定した成績を続ける古豪・浜松商業も同じブロック、城南静岡は藤枝明誠戦前に強敵と対峙しなければならない。また昨年3位の飛龍もこのブロックにいるのも他チームからすると不気味に映るに違いない。

藤枝明誠は今年も県新人・県総体を制し、さらに昨年は準優勝に甘んじた東海新人・東海総体ともに優勝を果たしてまさに東海無双状態で全国制覇を目指して第4シードで臨んだインターハイ、前日勝利して勢いに乗る北陸学院にまさかの大苦戦、後半に入ってもなかなか差は縮まらず、それでも粉骨砕身捨て身の攻撃で1点差まで詰め寄るも相手のタフショットがことごとく決まり6点差で万事休す、悪夢の初戦敗退となった。好事魔多しとは言うものの、常に全国のメインコートに立ち続けた常勝軍団の思わぬ敗戦に私も言葉が出なくなった。しかしながら「負けに不思議の負けなし」の言葉の如く、目の前の敗戦から目をそらさず冷静に現実に向き合い敗因

を分析し、それを修正していく謙虚な姿勢に長年蓄積された強豪校の強さがあることを再確認した。ただこの試合で北陸学院が見せた東海王者攻略法、そして垣間見られた数少ない弱点を県内のライバルチームは必ず研究しているに違いない。常勝王者といえども近年にない追い込まれた状況で迎える大会となり、危機感を十分に持って臨むであろう。

そのチームを背負う屋台骨は全国屈指のテクニシャン・**野津洸創**。インハイ初戦敗退という受け入れがたい現実を誰よりも深く解析し次へとつなげる不屈の魂を持つサムライである。「夏の悔しい敗戦をチャレンジャーに立ち戻って冬への活力と化す」ために自身はもちろんチーム全体を鼓舞する。伸び続ける身長は今年に入ってさらに2cm伸びて192cm、アグレッシブさが増したインサイドプレーにも磨きがかかり、持ち味の外・中盤の役割だけでなく文字通り正真正銘のオールラウンダーに成長した。1年次からキャリアを重ね、研ぎ澄まされた得点感覚を披露しチームに勝利の雨を降らし続けた「ビクトリーメイカー」も高校生活最後の舞台、執拗に対応されるマークに対し仲間が積極的に動いて刹那の時間を作り出したノーマークを必ずモノにする決定力は天下一品、優れた体勢でのシュートも正確無比、華麗に決まるフローターシュートも絶品、今大会注目ナンバーワン選手として1試合でも多く彼のプレーを我々の眼に焼き付けておきたい。2年生ながら脈々と受け継がれるゲームキャプテンの重圧を試合のなかで爽快感に変えてプレーする**渡邊聖**もコート内どのアングルからもスピード満点で切り込みレイアップそしてジャンパーを放つスコアラー、U15Bリーグ選手権決勝で3P7本を含む37得点を決めた勝負所での強さは高校でキャリアを重ねますます磨きがかかった。チーム事情でポイントカードにも挑戦し各総体でも器用にこなす姿は見られ、まさに適材適所与えられたポジションを難なくこなす姿は「ミスター・ユーティリティー」、プレーの幅も増え一流選手の階段をのぼる姿に次世代のスーパースターの雄姿を垣間見た思いを感じた。チーム随一のリバウンダー・**篠原遼太**とえば全国大会で見せた留学生との熾烈なリバウンド争いが思い出される。185cmという全国レベルではお世辞にも高身長とは言えないが、超人的な跳躍力でゴール下の戦場に挑みボールを奪う支配力は見逃せない。北陸学院戦でもチーム最多の15得点と孤軍奮闘、もはや伝説の美技として語り草となっている東山戦で見せたブロックショットを県内でも是非披露して欲しい。赤間賢人・プリンス・野津・渡邊と令和に入って代々続く藤枝明誠のスーパールーキー、今年はゴッドドアで野津の後輩に当たる**福本彩人**。持ち味の堅守速攻を地で行くスコアラー、デビュー大会となる県総体でも決勝でチーム最多の16得点、最大の特徴はチャンスがどこに潜んでいるのかを見極める「確かな眼」を持っていること、東海国スポでもエースとして東海3県との試合で計41得点を挙げる大活躍を見せた。エコパで見せた衝撃的なデビュー以上のプレーを県武道館でも見たい選手である。

インサイドには留学生2人が待ち構える。ピック&ロールへのこだわりを捨てローポストからの得点パターンに境地を見出した200cm **アマーエマニュエルチネメソン**は昨年のトップリーグでロードプリンスの穴を埋めながら頭角を現しプレーの質も向上、技巧派テクニクも体得し先輩とはタイプの異なったトップレベルの留学生に成長した。リバウンドを意識したインサイドプレーは当然ながら、速攻を演出するロングパスにも注目して欲しい。得点・リバウンドでダブルダブルを達成した北陸学院戦も目立たないところで3つのアシストを挙げたことも特筆される。セネガルからの留学生205cm **ンバイ・モドゥ**は期待のリムプロテクター、ペイントエリアで存在感を示し長いウイングスパンを生かした華麗なブロックとストライドを利した一步早いディフェンスが魅力、オンザコートワンルールの関係で出場時間も限られるが、堅実な守備も頼もしいルーキーである。その他、昨年セカンドユニットとして売り出された面々がスタメン勢の牙城に食い込むだろう。東海総体でも見せた高確率に決める3Pや相手にターンオーバーを誘発させるトリッキーなディフェンスが生命線の起爆剤・**金子來樹**、チームの切り込み隊長として黒子に

徹したアシストを供給する**高松悠季**、ミートストップしてから膝を柔らかく使って高い打点で放つミドルレンジがチームを救う**柴田陽**などの県内随一の厚い戦力を擁し、大会4連覇での県制覇はもちろん、未だ果たせぬ夢の「全国制覇」に向かって勇往邁進する。

県総体8位・**城南静岡**は先述の通り近年安定した成績を残し続ける。県総体では富士宮東を下して勢いに乗る浜松工業と2回戦で対戦、冷静沈着に相手を攻略し県8強を確定させた。その後は勝ち星に恵まれなかったが、エコパで見せた躍動感あふれるバスケットは今後の飛躍を感じさせるものであった。1年から3年までバランスよく整った戦力で藤枝明誠に挑みたい。

やはり頼れる3年生・**望月吹**と**大石侑**はともに似たタイプのシューター、特に望月はムラのないシュート成功率が特色、エコパでも決めたディープスリーはチームの方舟としての命運を担う。大石も度胸満点の3Pが魅力、仲間の力強いリバウンドにも支えられ、セカンドチャンスでも得点に絡めることが強みである。大型新人・**市川天道**は恵まれたバスケットセンスと裏打ちされた練習量で「3年先まで安心して任せられる大黒柱」に成長した。何が凄いとさえいえないほどの得点力、ドライブ・ジャンパー・リバウンド・3P どんな形でも得点を挙げられる。バスケットは大量得点を競い合うスポーツ、特技が得点を取ることという彼のような選手はどのチームも喉から手が出るほど欲しい選手である。県総体・浜松興誠戦では開始から11点目まで連続得点、合計21得点を挙げる新入生としてはお釣りがくるほどのプレーを見せた。この3選手が有機的に機能した時に城南静岡の本来の実力が発揮される。その他にも、レギュラーの座を確固たるものにし華麗なパスワークでチームを支える**和賀井翔哉**、スーパーサブとして窮地を救い続けた**影山奨真**、ルーキーながら県総体でも要所で監督の信頼を得て起用された**木村零月**、恵まれたフィジカルとポテンシャルでチャンスを掴んだ**大藤大樹**、県総体でも得点を決めた**中山瑛仁**、焼津市選抜選手としてモンゴル遠征にも参加した**宮城島瑛斗**・**久保山友羽**、静岡市選抜にも選ばれた**青山大悟**など世代バランスが整った面々で浜松商業との王者挑戦権争いを制したい。

昨年ベスト8の**浜松商業**は1年次より実践経験を与えられてきた3年生2人が残り、さらに今春着任した**本間光一**監督の教えが浸透してきて、ブロック決勝進出も十分狙える戦力である。

エース・**小島颯也**はミニ時代からこの世代を代表する選手、中学時代に全国も経験、今回私もそのテクニックと実績に敬意を表し裏表紙に抜擢した。長くボールを持たずにシュートやパスに移行するセンスは抜群、低い姿勢から猪突猛進で見せるドライブは天下一品である。**千葉勢太**は下級生時代には限られたプレータイムや怪我人のリカバリーとして使われることが多かったが、今大会では小島とともにチームの中心となつてのプレーが期待され、それだけのポテンシャルは十分持つと確信する。筋肉隆々の肉体から放たれる攻撃の突破口は相手にフェンスも吹き飛ばす強靱な迫力を見せ、プレーを見る限り相当腹筋を鍛えているに違いない。下級生に目を移すと、昨年来チームの主力として活躍する長身トリオ182cm **中山雄陽**・182cm **和田悠慎**・180cm **辻村未来**にも期待が集まる。特に和田は柔軟性ある身体から繰り出されるプレーが「しなやか」の一言に尽き、シュートチャンスに腕が下がらないのが特徴、県総体・沼津中央戦でも敗れたものの11得点を挙げた。**坪井達真**はシューター、監督にドライブを徹底的に鍛えられインサイドの攻撃も磨きがかかってきた。王者挑戦権を賭けての城南静岡との試合は5回戦屈指の好カード、勝利の女神はどちらに微笑むのか予想すらつかない。

沼津商業は一昨年以来2年ぶりのウインター出場、チーム一丸となつてのディフェンスと思いい切りのよいプレーで迷わずシュートを打ち切る積極的姿勢の攻撃が魅力。鋭いドライブからの得点力に秀でる2年生・**堤絢士郎**を筆頭に、粘り強いディフェンスと3Pシュートを武器にする

玉野健、積極的なオフェンスリバウンドでセカンドチャンスをつなげ、打ち気満点の 3P シュートでチームの導火線に火をつける前幸誠など、全員がウインター初出場、新進気鋭の面々でまずは初戦勝利を目指す。

その他の注目選手として、戸田湧大・檜垣奏太・永田貴陸・福間聖也・高平爽太・小森蒼斗・徳田翔太・長谷川陽大(藤枝明誠)、前田大翔・塚本定太郎・井上哲夫・川崎潤之介(駿河総合)、鈴木貴斗・勝又慎太郎・原和輝・長谷川泰一(三島北)、清水敦稀・関根悠輝(浜松湖南)、久野綾大・伊藤来晟・松田悠杜・平本琉偉(浜松商業)、中川陽月・五百旗頭光希(清水東)、海野魁斗(静岡農業)、安心院慶・清水康喜(榛原)、小針琉碧・内田瑛梧・中村心汰朗・村松聖夏・富永悠生・植木鳳雅・清水獅王(飛龍)、中澤優乙・河合咲陽・村本尚輝・山下天輝・吉原虎珀・山本流空・坂口司(浜松工業)、芦澤壮平(富士)、ゴタマルコス・栗田愁都・小林端琉(小笠)、柴田悠生・溝口東吾(磐田農業)、保角欣耶・道下砦・大島優成(三島南)、駒形星椰・山口大晴(島田)、黒柳和(沼津工業)、日比野淳希(浜松南)などを挙げたい。

左下のブロックは県総体 4 位・静岡商業と 5 位・浜松学院興誠が県武道館、そしてメインコートも賭けて 5 ヶ月ぶりの再戦が実現する可能性が高い。両雄は東海新人を賭けて県新人でも対戦、この時は浜松学院(当時)が勝利、そして県総体準々決勝で再戦、タイムアウトの応酬で 2 時間を超える激闘を静岡商業が 2 点差で制した。昨年この大会でも 5 回戦で対戦した両雄、1 年間に及ぶ「恩讐の彼方」に文字通り今回が正真正銘の決着戦となる。

静岡商業は中部新人 4 連覇、県新人・県総体連続して県 4 強入り、ともに惜しくも東海大会は逃したが、留学生や県外出身の選手を抱える私学勢が優位に立つ中で、地元選手のみで構成で公立高校としてここまで上位を維持し続ける増田哲也監督の卓越した指導力とその厳しい練習に耐え抜く選手たちの不撓不屈の精神に、私も同じ公立高校教員として頭が下がる思いである。3P でチームの窮地を救ってきた北堀遥大やシックスマンの富井遼真はチームを離れたが残りの主力は健在、今回もまずは 48 年ぶりのベスト 4 を狙う。

体型やポジションにかかわらず比較的誰でも外からもシュートが入るファイブアウト的な陣容ではあるが、とはいえ北堀の抜けた穴は決して小さくない。そのなかで中心となるのは文谷虎斗。プレーに対していつも冷静沈着、落ち着いた判断能力でコート上の監督ともいえる選手、不器用な面もあるが指揮官が大いなる期待を込めて我慢に我慢を重ね起用し続け見事開花した選手、増田監督の最高傑作と言える。この選手の魅力はドライブに行く瞬間にある。その瞬間どんなプレーヤーでも進行方向に微妙に身体が動く。守備側はそれを見極めて重心を傾けるが、彼は相手が重心を傾けた逆方向へ瞬時にドライブを仕掛け得点につなげる。一見リスクに見えるこのプレーも彼の術中にはまれば見事成功を導き出す。司令塔・佐野煌介は 16 得点を挙げた県総体・浜松開誠館戦の勝負所で見せた 3P が真骨頂だが、ペイントエリアでのシュートも絶妙、ディフェンスも相手との間合いの取り方がうまく攻守の要となる。齊藤遙人は安定したプレーに定評があり好不調の波が少ない選手、確実に得点を計算できることで指揮官の信頼を勝ち取った。特に県総体・浜松興誠戦では試合を決定づける逆転の 3P を決めて勝利の立役者になり、難敵相手に戦ったエコパ決戦 2 試合でも 30 得点、40 分間走り続けられる無尽蔵のスタミナを誇る。ただファウルトラブルに悩まされることも多く、東海総体を賭けた静岡学園戦は絶好調の中で無念のファウルアウト、ベンチで流した無念の涙をこの大会で取り戻して欲しい。仲山柗志はスタッツには表れにくい貢献度でチームを支える。特に一見強引気味に見えるドライブも判断段階で緻密に計算されてのもので、それでも中に割った時に難しいと判断すれば合わせの仲間にパスを出

し次につながられるプレーヤーである。その他にも、浜松開誠館戦に途中出場し見事 3P を決めた久保山大飛や新キャプテン・鈴木瑛斗、静岡市選抜にも選ばれた鈴木陽翔など選手それぞれが指導者の鍛錬によりセンスと実力が磨かれて一流選手に成長した雑草軍団、因縁の相手との決着戦を制し、公立男子としては平成 24 年の浜松商業以来のメインコートを目指す。

浜松学院興誠は今春校名変更により 14 年ぶりに伝統の「興誠」の名前が帰ってきた。総体予選で見たオレンジのユニフォームに「KOSEI」の文字は過去興誠時代に 29 回全国に出場し、その強さに私たちに震え上がらせた黄金時代を思い出させてくれた。去年は準々決勝で飛龍に敗れたが、全国出場枠が 2 枠となった一昨年は実質的な全国決定戦で浜松開誠館に競り勝ちワンチャンスをものにして全国を勝ち取った。出場チームの中では一番多く決勝リーグを経験しており、戦い方の酸いも甘いも知るチームである。

チームの中心は言わずもがなの末永・西垣のWエース。末永蒼はミニ・中学で全国を経験しているキャリアが強み、高校でも全国に出場して世代別全国コンプリートを狙う。要所でシュートを決めて相手の勝気を削ぎその気にさせない、相手にとって非常に「嫌なバスケット」を見せる試合巧者、ディフェンスも重心が低く、相手にはじめの一步を入れさせない動きを見せる。主将・西垣玲央は末永と対角をなすプレーヤー、とにかく得点を多く入れてチームに勝利をもたらす。県総体・沼津中央戦ではお互いが喉から手が出るほど欲しい 5 位の座を目指して死闘を繰り広げるなか、鋭いドライブもさることながら 3P3 本を含む 28 得点、これだけ重圧がかかる試合でポーカーフェイスを保ちながら事もなげにやってのける稀代の点取り屋である。新人戦以来目を見張る成長が続く藤井惺楽は粘り強い守備を武器とし、相手がゴール下に入り込む前に初動を速めたディフェンスで身を挺して止める力強さを持つ。さらにペリメター付近からのシュート力も上がり、沼津中央戦では 8 本のミドルを決めた。終盤にはフリースローを 4 連続で決めるなど見事オールラウンダーに変貌を遂げた。その他にも、県総体で活躍を見せた根岸凌央・佐藤瑞樹、昨年の U15 県協会優秀選手、Jr. ウィンター出場など黄金のキャリアを引き下げて東海国スポにも選ばれた 193cm 藪部良介、同じく予備登録選手の長谷川雄哉、180cm オーバーの宮澤政人・伊藤太良・工藤楓人・坂本佳呂主・高田蓮土など高身長が揃う。それに加えてナイジェリアからの留学生オビオラチデンドゥクリスティーンは 205cm、県総体で見た時は高さへの対応は申し分なくスピードも留学生としては合格点であったがゴール下の押し合いに対して若干弱さが見えた。日本の生活に慣れてきた秋にはさらなる適応力と成長の跡が見られることを期待する。まずは今年 3 度目、1 勝 1 敗で迎える静岡商業との決着戦を制して県武道館に進み、2 年ぶりの全国出場、そして 9 年ぶりの優勝を成し遂げたい。

島田工業も侮れない。このチームは中部新人 5 位・中部総体 5 位・県新人ベスト 16・県総体ベスト 16 という安定した成績を継続、今シーズン公式戦 14 勝 4 敗、勝率 8 割に迫る驚異的な戦績を誇る。敗れた 4 チームも静岡商業・沼津中央・静岡学園・浜松開誠館とどれも県大会 6 位以上のチームである。潜在的には今回県 8 強に入っても不思議ではない戦力を誇る。

エース・増田好汰はまさに突貫選手、私はこの選手を非常に高く評価する。鋭いドライブの中にも瞬時に置ける状況判断でパスをさばき、時に止まってアウトレットに方向転換することも出来る試合巧者、そのテクニックに敬意を払い今回裏表紙にも起用した。近藤翔太は中学時代、沼津中央の高木と切磋琢磨して成長した好選手、優れた跳躍力を生かしたリバウンドや躊躇なく放つ 3P で得点を量産、県総体・浜松湖南戦では 3P3 本を含む 21 得点を挙げた。その他にも、池谷月楓・後藤彩杜・河村颯大など不動のスタメン勢で、中部新人で敗れた静岡商業との再戦をものにし、悲願の県 8 強入りしたい。

このブロックにいる**吉原工業・吉原**は大会史上初の「男子」合同チームである。平成 28 年に女子で初登場、今では全く珍しくなくなったが男子は今までどの大会でも合同チームが出場することはなかった。さらにその合同の編成状況も初のパターン、今までの合同はすべて関わった高校の選手数が 5 人に満たずに結成された一方で、今回は吉原工業 14 人・吉原 3 人の計 17 人、吉原工業は単独でも出場できる。吉原の選手不足を救済するため、高体連が示す合同チーム参加ガイドラインの「特例」として、合同希望チームが地区で 1 校しかない場合、5 名以上の部員を擁する近隣の学校と合同を組むことができる、という規定に沿った新たなスタイルの合同チームが誕生した。特に**吉原工業**は 2 年ぶりの出場、私も工業大会で対戦したが圧倒的なフィジカルを武器にインサイドを支配しアウトサイドにも力を入れ中外こなせるフォワード**木下友稀**や長身のインサイド・**佐藤鴻晟**、八面六臂にコートを走る**赤星煌希**などが目に付いた。運動量のあるガード陣を中心にハードに守り抜くチーム、合同を組んでから夏に徹底的に走力を鍛え、暑さにも耐えながら厳しい環境下の中で練習してきたことが実を結び、秋以降は最終まで走力が落ちずに走り続けられるチームに成長、ローポストでポストアップからの 1 対 1 やスロットポジションからの 1on1 を中心に個人のスキルを生かしたオフェンスを展開する。廃部の危機を乗り越え数少ない上級生をまとめ、ここまでチームを引っ張ってきた頼れる主将・鋭いドライブからのレイアップとジャンパーを武器に得点を量産する**遠藤正基**と長身を武器にゴール下を支配、卓越なハンドリングや身のこなしもよく、スムーズな動きができる万能フォワード**吉原の高橋乃羽**もチームを支え、特に高橋と赤星は須津中時代の先輩・後輩、プレーが阿吽の呼吸であることは容易に想像できる。

その他の注目選手として、**杉本和輝・佐藤吏玖・宮島蓮・遠藤宇暉**(島田工業), **黒崎健太郎**(静岡聖光学院), **清水大・天野雄太**(清水南), **宮城嶋龍之介・新海孝太・平野琥太郎・飯村湊太・鈴木優・菊池泰我**(東海大静岡翔洋), **岩崎翔・中川朝陽・三浦和希**(常葉大橋), **新海陽向・杉浦璃央・石上詠士**(静岡城北), **柳原愛斗・仁田湧大・中谷元**(島田商業), **井田康介・袴田悠翔・井口信行・鈴木大翔**(浜松湖東), **坂井聖弥・宇津朗・鈴木海世**(日大三島), **田代侑也・内田夢斗・加藤泰史**(伊豆中央), **尾嶋奏亮・竹田俊太郎・新堀瑛翔・鈴木康介・櫻井壮真**(浜松北), **佐藤愛琉・齋藤志碧**(浜北西), **鈴木孔士郎・横山悠貴・森山蓮太郎・田代真悟・萱間凌斗**(御殿場), **青木大夢・芹澤幹陸**ガウデンシオ(沼津高専), **久保山耀太・山本珀琥・岡本陸**(藤枝北)などを挙げたい。

右上のブロックは、静岡商業を破り県総体 3 位で 6 年ぶりに東海総体に出場した静岡学園と、昨年のこの大会 3 位・県総体 6 位の沼津中央が決勝リーグ進出を賭け今年 3 度目の対戦が予想される。県新人では 18 点差で沼津中央、県総体では 8 点差で静岡学園が勝利を掴み取った。直近大会 3 位と 6 位という数字上の順位だけでは比較できない強豪同士のブロック決勝は大会屈指の好カード、勝てば最低でももう 3 試合、さらには全国の檜舞台の可能性も秘め、負ければ高校バスケット最後の試合となるまさに「天国と地獄」を賭けた本当の意味での死闘となる。

静岡学園は昨年 5 回戦で浜松商業に 3 点差の惜敗、悔し涙に暮れた思いが今この地位を築いている。指導者を信じ、仲間を信じ、繰り返しの練習と強豪校との対戦を求めた遠征でチーム力を強化、その結果が 6 年ぶりの東海総体出場として結実した。就任 22 年目の**近野修**監督が手塩にかけて育てた選手、私もこのチームの試合を多く見たが、タイムアウトやインターバル中、監督が常に丁寧に一つ一つ噛み締めるように事細かく指示を与え、選手たちはそれを短時間で理解しコート上で体現していく姿が印象に残った。2 枠に増枠したこのチャンスを生かし、東海で満

足せず四半世紀ぶりの全国出場、そして優勝を目指す。

その中心となるのはエース・190cm **内山直陽**。この3年間で一流選手に成長、県を代表する選手へと育った。どの試合でも貢献度は高いが、東海を賭けた静岡商業戦、前半終了時までリードを許し、後半早々逆転するも相手も必死、なかなか点差が開かず最終盤で6点差、スリー2本で窮地に陥る場面、コート上にいる静岡学園選手全員が見せた鬼気迫る攻撃の中で彼が決めたエコパの天に綺麗な放物線を描いて決めた栄光への3Pは相手を意気消沈させて値千金の勝利をもたらした。この試合21得点、研ぎ澄まされた集中力、絶妙のパスセンス、裏を使って弧を描きながら最高の位置からボードを使って決めるバックシュート、意識的にリングから遠い方の腕で放つフックシュートなど美技の数々を挙げれば枚挙に暇がない。最高の指導者、最高の仲間とともに高校時代いまだ果たせていない県武道館でのバスケ、そして東京体育館でのプレーも目指す。ポテンシャル・センスという部分では内山よりも上、そう感じられるのが**小永井優磨**。1年次の輝きを取り戻し、チームの中心を担うハンドラー。県新人・韮山戦でも新藤の執拗なディフェンスをかいくぐりゴールを連発、静岡商業戦でも後半に相手の反撃の芽を摘む3Pを決めるなど内外から得点できることが強みである。国スポで静岡県に多大な貢献をし、そこで培ったキャプテンシーをチームにも還元する**大長真士**は司令塔として大きく成長、ドライブや硬い守備だけでなく張り詰めたクロスゲームの中で「無我」になり決めるフリースローも魅力、県総体・沼津中央戦の終盤に4本決めたのも大きかった。どんな逆境でも顔色一つ変えず喜怒哀楽を出さずにチームの勝利に向かって邁進するのが**五條漱士**。新人戦・総体を通して明らかにシュートの精度が上がり、それに比例してチームも右肩上がりに成績を残すようになった。東海総体・高山西戦でも巧みな1on1や3Pでチーム最多の25得点を挙げた。インサイドに待ち受けるのは190cm **小野田礼輝**、同じ身長の内山がフォワード色強い位置にいるためゴール下を任されているが、実践向きの選手で試合を重ねるたびに成果を出す選手、外の選手にさばくとっさの状況判断も出来てチームから全幅の信頼を寄せられている。上位戦では留学生がいるチームとの対戦が予想され、ゴール下での判断の見極めがカギを握る。この不動のスタメン5人以外にも、県選抜にも選ばれ総体では留学生にマッチアップし留学生対策のお手本のような脚の使い方を見せた**鈴木麻也**、東海総体でも途中出場して得点を挙げた**石井蓮音**、186cmの長身を生かしたプレーで小野田のバックアップを務める**細澤慧太郎**などの勇者が揃う。平均身長179.2cmは藤枝明誠に次ぐ高さ、だがそれだけに頼らないテクニックと戦術で沼津中央との決着戦を制したい。

対する**沼津中央**は県新人で浜松開誠館、県総体で静岡学園に敗れ連続してベスト4を逃した。雪辱を期したい今大会、万難を排して2年連続のメインコートを目指す。最大の特色は何といっても高さ、190cm超を3人抱え、しかも戦術によっては3人が同時出場しリバウンド・ブロックに絡み、それでいて全体のスピードも極端に落ちる訳ではないから相手にとっては脅威である。

昨年来私が絶賛を続ける190cm **高木強臣**は今大会ナンバーワンの跳躍力を誇り、後藤(浜松開誠館)とともに留学生と互角以上に高さで勝負出来る逸材、県総体・浜松西戦ではインサイドでゴリゴリ押し切ってノーチャージングエリアで膝を使ってシュートを決めるお家芸が見られ22得点、仮にシュートが外れてももう一度ボールに食らいつきそのままタップで決められるスキルも持ち、野津(藤枝明誠)と並び今大会絶対に見逃してはならないファンタジスタである。今大会最高身長207cm **ハビブアテイザカリファ**は昨年はまだパワーで物足りなさを感じたが新人戦・総体と実践を重ねるたびに成長を遂げ、リバウンドはもちろんピック&ロールやハイポストスクリーン、そしてブレイクにも加わるなど多岐にわたりチームに貢献、浜松興誠戦では21得点、沼津中央が誇るアウトサイド陣からのループパスをアリウープで決める場面も見られ、もはや制空権を支配したと言っても過言ではない。国体でも活躍したモンゴル出身192cm **エルデネサイ**

ハンエルデネバドもカリファとの併用が続くが日本人扱いのため同時出場が可能、オンコート5選手中3人が190オーバーの布陣に相手は攻めていくか頭を悩ますに違いない。彼の長所は高さを生かしたプレーだが、無理にシュートに行かずにさまざまな選択肢を適材適所で選べること、日本で習得した経験がなせる業である。アウトサイドにも玄人好みの職人が揃う。偉大なる先輩に敬意を払いながら「静岡の富樫勇樹」と呼ばれる**中島清之介**はまさにいぶし銀、広い視野からクイックパスが前後左右に出され、チャンスがあれば自身もためらわずにドライブを仕掛ける。敗れたものの県総体・静岡学園戦では23得点を稼いだ。**村上幸斗**は県新人・静岡学園戦で勝利の立役者、入りだしたら止まらない3Pが持ち味である。キャプテン・**本間嵩武**の持ち味は富永啓生を彷彿させるディープスリー、同郷の中島と連携したアシストを導き出すパスも冴える。その他、1on1に強い**渡辺碧波**、スピードを生かしたプレーが魅力・**長山惺**、巧みなステップを見せる**郷大輝**、ランゲームはお手のもの・**大濱良太**、東海国スポにも出場し得点を挙げた**森田悠月**など四隅にひけを取らない戦力を誇る。毎試合必ず日替わりヒーローが誕生するこのチーム、全国を狙う静岡学園がどのような対策を練ってくるのか、決着戦が待ちきれない。

県新人8位・東部総体準優勝の**菰山**もこのブロック。近年必ず上位戦に顔を出すようになったのは**齋藤潤**監督の熱い指導により選手が鍛え抜かれた賜物である。

主力の岡本心真や精神的支柱だった深澤昂士朗は引退したが、実戦経験のある1,2年生が多く残っているのも強みである。エース・**新藤穂月**は静岡学園戦で相手得点源・小永井に密着して執拗に封じ込めたディフェンスは忘れられない。ドライブにもう少しスピードが加われば県を代表する選手になれる逸材である。このチームは飛び道具が至る所から放たれるのが特色、県総体でも**佐久間金助**・**土屋凜空**・**井上峻輔**・**川村蓮**が度胸満点の3Pを決めるシーンが多くみられた。対戦チームはこの点を十分に注意して戦わなければならない。

その他の注目選手として、**水野颯介**・**深澤慎之介**(菰山)、**小松原颯馬**・**津ヶ谷拳斗**・**望月亮太**(清水国際)、**野中颯人**・**片瀬仁**・**長嶋来樹**・**海野夢翔**・**鈴木理央**(静岡市立)、**安藤悠翔**・**太田一平**・**曾根田澄真**・(静岡東)、**山本晴輝**・**中澤和雅**・**水上陽向**(静岡学園)、**時田大雅**(静岡サレジオ)、**阿部航己**・**増井悠来**・**デラクルーズプリンス**(焼津)、**竹内銀河**・**笠井惺勇琉**・**望月優**・**馬顕嘉**(星陵)、**笹川凌央**・**森田准平**(磐田西)、**増井心汰朗**・**金見舜**(焼津中央)、**仲澤猛**・**新坂祐月**・**海瀬太希**・**小澤奏心**(加藤学園)、**野中慶人**・**雪山慶人**・**渡邊空聖**・**増田大也**・**赤堀慎**・**西山央甫**(常葉大菊川)、**原田峻**・**辻野陽向**・**山内崇史**・**野口永遠**・**松田紘希**・**瀬寄堅斗**(浜松聖星)、**芽野一真**・**尾上颯**(磐田南)、**石田蕾**(松崎)、**小野寺諒**(掛川工業)、**下田航輝**(伊豆伊東)、**松上瑛太**(富岳館)、**太田寛人**(横須賀)などを挙げたい。

右下のブロックは、昨年大会準優勝、県新人・県総体でも連続準優勝、東海新人・東海総体にも出場、県内で藤枝明誠を止めるチームはこのチームしかいないという確固たる地位に君臨し続ける浜松開誠館と、まさに公立の伝統校として安定した成績を続け、この大会でも3年連続ベスト8入りを果たしている浜松西がブロック決勝で対戦する公算が高い。

浜松開誠館は昨年から3大会連続準優勝が続き、満を持して4年ぶりの全国出場を優勝で華を添える機が熟した。実力・安定感ともに抜群、狙うは藤枝明誠を倒しての全国出場である。今年の戦力は高森・木村・後藤という全国レベルから見ても遜色ないトップアスリートを擁し、まさに戦力充実期と言える。ライバル・藤枝明誠が全国の初戦で敗れていく姿は浜松開誠館の選手の目にどのように映ったのか気になるが、きっと他チームのことよりもまずは己を鍛え抜いて強

くなることだけを考えて練習に精進しているはずだ。

不動のエースは**高森カイル**。2年間見せてくれた華麗なプレーは数知れず、県総体・東海総体はケガで出場機会がなかったがその分、高校バスケの集大成となる今大会に賭ける意気込みは計り知れない。言わずと知れたオールラウンダー、ボールミートから絶妙のタイミングで放たれるジャンパーは一級品、ハンドリング技術や瞬発力も高く、窮地に陥った状況でも焦らずひたすら得点を取る近道を模索していける頭脳明晰の3&Dプレーヤー、県武道館で多くの人に見てもらいたい押しも押されもせぬスーパースターである。**木村暁大**は次世代のエース、司令塔として広いシュートエリアを保ちながら多彩なオフェンスを演出する選手、昨年この大会でそのプレーをじっくり観察して1年生ながら随所に見せる華麗なテクニックに度肝を抜いたことを思い返す。技術面で言えば今大会野津と双璧である。全中・Jr ウインターを制した経験に裏打ちされた確かな技術、この場面でもと思わせる状況で出されたパスが最終的に得点に結びつくことも多く、東海総体・美濃加茂戦でも3P2本を含む20得点を稼ぐなど相手に関係なく勝利のために自分の役割を実直にこなすまさに「仕事人」である。県内日本人最高身長196cm**後藤大鷲**はU18日本代表に選ばれたこともある「静岡県の至宝」、親譲りの恵まれた身体を十分に生かしたプレーが今まで以上に見られるようになったことが何より大きな成長の証と言える。比江島慎のように超大型選手でも3Pを試みるバスケが主流になった昨今、果敢に3Pを決めるのも特徴、県総体決勝の大舞台でも見事に決めた。激しいファウルレシーブの後でもきちんと決めるフリースローも含め、単なるリバウンダーで終わるはずがない本物の大器である。その他にも、県総体でもスタメン出場を続け内外から得点を挙げた**北條隆稀**、県総体・藤枝明誠戦において要所で見せたトリッキーなドリブルやパスを見てフォトエリアで取材していた報道陣にざわめきが起るほど鮮烈な印象を残した**宮城琉希**、接触をいとわないインテンシブなディフェンスでチームの砦となる**石田唯翔**、1年生ながら県総体全試合スタメン、藤枝明誠ではチーム最多の13得点を挙げる大活躍、滋賀国スポのメンバーにも選ばれた**鐘ヶ江咲斗**、そしてU16日本代表エントリーキャンプにも2度招集された経験を持ち東海総体でもスタメン出場を果たした**鈴木柊矢**など藤枝明誠に勝るとも劣らないタレント揃いのスター軍団、お互い順調に勝ち上がれば決勝リーグ初戦での静岡学園戦が事実上の全国出場決定戦、両雄は今年一度も対戦がなく、公式戦では開誠館が勝利を収めた昨年の新人戦までさかのぼる。まずはその試合を制して2度目の全国出場に王手をかけ、その勢いで藤枝明誠の牙城も崩したい。

県総体6位の**浜松西**は長年チームを牽引してきた尾藤遙陽・関宮怜央・山田悠睦が引退しフレッシュな面々で大会に臨む。昨年のチームは長身選手を多く抱えポスト主体にバスケを展開、シールで相手との駆け引きに勝ち、パスを呼び込み得点を重ねた。今年はサイズという点では厳しいが鍛え抜かれた走力と粘り強い守備で初のメインコートを目指す。

中心となるのがシューティングカードの**辻本直矢**。低い体勢でハヤブサの如く素早いドライブを見せ、ディフェンスではマークマンに積極的にピックレスティールして速攻に持ち込む選手、走力やスタミナもあり、相手チームにとっては手強い選手である。県総体・城南静岡戦で5本決めた3Pにも要注意である。辻本とともに下級生時代から経験を積んだ**坂本陽樹**は強靱なフィジカルを武器にカッティングしていくドライブが醍醐味、シュートの成功率も高く得点源となる。エコパ決勝では早い段階で途中投入され2試合で25得点をマーク、指揮官からの厚い信頼感が垣間見られる。その他、県総体にも出場した**馬塚陸斗**・**花井飛雄**などの成長著しい選手も多くこれからが楽しみなチーム、「全員バスケ」を徹底して全力で戦うことを誓う。

県総体ベスト16の**袋井商業**は西部総体で敗れた浜松西とブロック決勝進出を賭けての対戦が

予想される。原慎之介監督着任後好成績を維持し、今回初の8強入りを狙う。バスケット競技歴のない原監督はたゆまぬ努力を続けチームを県上位常連にまで育て上げた。同じくバスケ経験の全くない私にとっても尊敬する指導者である。

毎回身を粉にして従事していたリバウンダーの周梓俊は引退したが、鋭いドライブとアウトサイドを得意とする岡本有都は県総体・静岡学園戦で21得点、まさにチームのスコアラー、スピードあふれる井田翔太はドライブからのレイアップに絶対の自信を持つ選手、もう少しキックアウトを効果的に使うと相手はシュートブロックにすら行けない完成度の高いシュートが打てるはずである。二人はともに浅羽ミニから続くチームメイト、10年目の集大成として今大会に臨む。チームとしては周の穴を埋めるであろう187cm村上日向太の成長に注目したい。

このブロックの注目選手として、岸川藍佑・宇都宮大騎(浜松開誠館)、林優寿・高塚蓮(袋井商業)、石田真也・佐藤秀悟(浜松西)、鯨岡創詩・野田陽斗・芹澤陽色・芹澤陽向(島田樟誠)、佐久間想・齋藤崇宏・大石夏・當摩尚弥(藤枝東)、戸篠悠海・駒井豪人・児玉祥磨・平澤遼介・阪本玲桜(科学技術)、田村悠人・増田遥斗・望月琥愛(静岡北)、ビエンシャン・ヴィリヤジャンハツ・細川生童・市川将翔・八木奏来澄・栗田琳蔵(静岡大成)、武田大陸(清水西)、中上智仁・黒岩晴・奥田彬人・宮内結人(静岡)、白壁昌也・飯島俐人・赤崎留毬(加藤学園暁秀)、稲葉蓮・味岡一輝・石川湊・瀧内由馬・高田颯馬・望月虹晴・杉谷勇臥(富士宮東)、松本実央・仁科祐真・阪本壮亮・藤本健生・植松輝(田方農業)、前田ガブリエル・水口友翔・原田択志(遠江総合)、松井大希(掛川西)、柳澤侑我(浜名)、鈴木一平・田中道覚(下田)、若林琉翔(富士宮北)、増田敬介・増田蓮(相良)などを挙げたい。

【女子】

今大会も9連覇中、県内大会も26連覇まで伸ばした浜松開誠館中心の優勝争いになることは間違いない。しかし今年は毎年恒例の枕詞に「連勝」の2文字がない。ご存じの通り、県新人で長年続いた連勝を東海大翔洋にストップされ、翔洋が一躍ライバルとして急浮上、その東海大静岡翔洋は県総体でも東海新人ベスト8の市立沼津・浜松南に連勝、8年ぶりに準優勝を飾って2年連続の東海総体出場も果たし、今回もストップ・ザ・開誠館の最右翼に挙げられる。順調に行けば今年1勝1敗で迎える両チームの決着戦が決勝の大舞台で行われる可能性が高いが、男子同様県総体3位から6位の浜松南・浜松学院興誠・常葉大常葉・市立沼津が2強を猛追しており、準決勝・準々決勝での波乱も十分起こりうる展開が予想され、まさしく「群雄割拠」という言葉がふさわしい大会となるであろう。

左上のブロックは、連勝は止まったとはいえ、県総体では従来以上に盤石の戦いを見せ、「県内敵なし」を印象付けた浜松開誠館の強さが群を抜く。その常勝女王に挑むのは、中部総体で県新人7位の静岡東を破ってその勢いそのまま県総体でも初の県ベスト8入りを果たした清水南なのか、昨年3位の沼津商業なのか、興味はつかない。東部総体準優勝・県総体ベスト16の三島南や準優勝経験もある駿河総合・浜松市立もこのブロック、粒ぞろいの試合巧者が集まったブロックとも言える。

浜松開誠館は県総体決勝で因縁の東海大翔洋と対戦、序盤お互いに意識しすぎたからか膠着した展開が続いたが、徐々に本来のスタイルに立ち戻り見事大会9連覇を果たした。東海総体で

は激戦区・東海の厚い壁に跳ね返されたが、新チームの初動である県新人と比べると数段個々の力が上積みされた感があった。全国総体では初戦・龍谷富山に逆転勝ち、続く東北総体準優勝の聖和学園相手に最後の最後まで喰らいつき、惜しくも2点差で敗れたものの伝統校相手に互角以上の実力を顕示した。

今年のチームは下級生主体の陣容だが、牽引するのは最上級生・エース**前川桃花**。今夏 U18 日本代表に選出され内モンゴル自治区での「日・中・韓ジュニア交流競技会」に出場、選手内で一番小柄だが中国・韓国戦連勝に貢献、日の丸戦士としての重責も十分に果たした。最大の特徴は冷静な判断力と安定感ある得点力、富山戦では全国大会特有の雰囲気による緊張感からか思わぬ苦戦を強いられ選手も浮足立つ中で、冷静沈着に自分を信じる強い気持ちをチーム内に伝え仲間もそれを信じ一丸となって「勝つイメージ」しか浮かばない状況を創り出し、最後の最後で見事逆転、これぞ開誠館のバスケットと思わせる会心の勝利を導き出した。続く聖和戦でも前日の反省を生かして自ら率先して 3P で相手の機先を制し、劇的なドラマを生んだ最終 Q、目まぐるしく攻守が変わるトランジションゲームでも自分のバスケット観を揺るがすことなく不退転の決意でチームの命運を担って走り続ける姿に私も涙腺が緩んでしまった。全国 2 試合で 8 本決めた 3P とポンプフェイクやダブルクラッチで相手ブロックをかわすゴール下、そしてリスクマネージメントがきちんと出来る鉄壁の守備力で県制覇を果たし、チームを目標の全国ベスト 4 以上まで導く。その聖和戦で 20 得点の大活躍が脳裏に残る**垣内優希奈**は周りに惑わされることなく常に自分のリズムでシュートを決めるクラッチシューター、ディフェンスではシューターに執拗にプレスをかけて相手に苦し紛れのタフショットを打たせて味方のリバウンドを信じるプレーなど攻守に秀いで、相手の様子や自軍の調子を見極めながら試合中に軌道修正をかけて現状にアジャストできるワンランク上の選手である。**牧田千紘**と言えばプレー中の笑顔が思い浮かぶ。東海・全国と進めば苦しい戦いが続くのは当然、そんな中でチームは何度彼女の笑顔に救われたことだろうか。笑顔だけで勝てるほどバスケットは甘くないが、その笑顔に裏打ちされた確固たる得点力・守備力・安定感そして指導者からの信頼と仲間からの人望、すべてを兼ね備えるからこそ成せる業(わざ)、県総体決勝でチーム最多の 22 得点を挙げた攻撃力と富山戦で見せた執念のディフェンスをもう一度県武道館で見たい。県新人で一躍レギュラーに名乗りを上げた**小林陽菜乃**と言えば切れ味鋭いドライブと跳躍力を利して高い地点から放たれる滞空時間が長い 3P など得点を取る嗅覚が別格、東海総体・星城戦では 3P 成功率驚異の 67%・計 25 得点、オフェンスリバウンドも量産し相手に付け入る隙を見せなかった。全国総体で見せた窮地を救ったスティール 3 本はディフェンス面でも成長を遂げた証(あかし)でもあった。3 年生**持田莉子**は 174cm の長身を生かしたポストプレーや力強いリバウンドが持ち味、県総体・東海総体でもスタメン出場、今大会は前川とともに高校生活最後の大会として勝利でチームに貢献する。1 年生に目を移すと東海国スポで活躍した選手が揃う。全 3 試合スタメン出場して華麗なターンシュートやグッドパスを見せた 170cm **齋藤ブレガマリアム**を筆頭に、インサイドの砦としてポストプレーや落下地点を予見して入るリバウンドセンスに光るものが見えるチーム最高身長 176cm・**舟久保汐**、長身 172cm・インサイドはもちろんガードも任せられ東海国スポでも 3P3 本を決めた万能選手・**鈴木寧音**、東海・全国総体ともに 3P を決めた**吉田光咲**、そして U16 日本代表候補にもなった経験を生かし全国総体 2 試合ともスタメン出場し初得点も挙げた**古屋和奏**など、前川・持田のキャリアとスキルに、十分な伸びしろがある下級生、そして日本代表アンダーカテゴリーも指導し、全国出場 20 回を誇る指揮官が三位一体になって脈々と受け継がれる強固なディフェンスから突破力のあるオフェンスにつなげる。連勝は止まったが連覇は継続中、夏に岡山で果たせなかった夢を冬の東京で叶えるためにも、今大会は相手がこの先 5 年 10 年も絶対に勝てないと思わせるほどの圧倒的な強さで大会 10 連覇を飾りたい。

県総体 8 位の**清水南**は勝負所で静岡東・三島南という地区上位校を破ったことがこの地位を導き出し、初のスーパーシードで今大会に臨む。敗れたものの浜松開誠館・常葉大常葉・藤枝順心に善戦できたことは自信につながったはずである。

中心となるのは入部直後からレギュラーを勝ち取り躍進の原動力となっている**宮城島夢子**。この選手の得点力はすさまじく、対戦校も対応に四苦八苦してきた。準々決勝進出を賭けた県総体・三島南戦でも序盤から相手の出鼻をくじくシュートで終わってみれば 20 得点、オフボール時に次のプレーを予測しながら味方が合わせやすいところに動いてパスをもらう動きができる選手である。3 年生**遠藤陽菜**は 154cm という小柄ながら縦横無尽に走り回り度胸満点の 3P を放つシューター、エコパ決勝でも随所でロングシュートを決めたまさしく「小さな巨人」。この 2 人を中心に、**菅野陽向・平沢妃花・平岡希星々・神谷芽維・飯田萌日花**などの戦力でパスランを中心としたスピード感あるバスケットで女王との再戦に挑む。

県総体ベスト 16 の**沼津商業**もこのブロック。昨年この大会の準々決勝で浜松学院との死闘を制して初の県 4 強。その立役者が**三浦咲**。飛び込みのリバウンド、ドライブ、3P、効果的に場面でのハンドオフパス、やることすべてが勝利につながるラッキーガールとなった。県総体は怪我で欠場したがその悔しさを胸に秘めて今大会に臨む。盟友・**田口心優**、三浦の穴を埋めた 3P シューター**今坂怜愛**、下級生の**森山結愛・河野麻穂・稲田千愛・稲田千優**など、走力と技術を駆使した戦力で 3 年連続の県武道館を目指す。

三島南は東部総体準優勝でのぞんだ県総体、清水南に敗れてベスト 16 に終わった。今回チームを 2 度地区大会決勝の舞台に導いた**伊澤せり・渡邊結衣・足立結菜・久芳美羽・山中和奏**の 3 年生 5 人が残り、新チームでは主軸を担う**萩原咲菜**とともに堅守速攻のバスケットを貫く。**菊岡南那・内山留瑠・袴田蒼・袴田茜**などの戦力を擁する**浜松市立**と戦う 3 回戦がひとつ山場になるがきちんと乗り切って常勝王者に挑みたい。

静岡学園も 2 年ぶりの単独出場となる。昨年は「静岡学園・静岡英和・焼津中央・焼津水産」という史上最多・4 校合同チームで出場、新人戦も 4 校合同、中部総体は静岡英和との合同、今年は悲願の単独出場を果たした。静岡市フェスティバルにも出場した**笠井菜月**や、前途有望な期待の大型新人・**増田みつき**などの戦力で合同時代を含めて 4 年連続の初戦突破を目指す。

その他の注目選手として、**佐藤みなみ・平野夢歩・鈴木千夏・片岡美紗**(浜松開誠館)、**岩田蒼未・石上七菜・天野なつき・青木蘭・青野愛琉・岸山愛海・小澤彩葉・伴野結奈・原崎璃依**(駿河総合)、**森柚奈・青葉璃子・青島恵美**(磐田西)、**齋藤楓采**(静岡サレジオ)、**藤田琉叶**(清水西)、**小久保有紗・関根美緒・山田咲織・藤井ひより**(浜松市立)、**堺あかり・渡邊紅玲羽・加藤和奏・諸伏なごみ**(沼津商業)、**甲賀彩菜・北村梨紗**(吉原)、**野村結花・渡邊華帆**(富士東)、**木ノ内結菜・岡本絢香**(袋井商業)、**神行華子・早川琴音**(清流館)などを挙げたい。

左下のブロックは、4 年連続で県総体 4 強入りを続けるなど安定した実力が魅力の浜松学院興誠と、市立沼津との名勝負数え唄を制し見事県総体 5 位を勝ち取った常葉大常葉による熾烈なメインコート争いが予想される。こちらも今大会いたるところで繰り広げられる「今年 3 度目の対戦」、県新人ではオーバータイムの末に浜松学院(当時)が勝利、県総体では戦前の予想以上に点差が開く展開で浜松興誠が常葉を返り討ちにした。点差以上に両試合とも白熱した試合で、今回

も実現すれば手の内を知り尽くした両雄による筆舌しがたい熱い戦いが繰り広げられることは間違いない。

浜松学院興誠は昨年沼津商業に終盤大逆転を許しメインコートを逃し、県総体では浜松南との東海総体出場決定戦で惜しくも敗れ2年連続で東海を逃した。その悔しさをバネに今回は是が非でも常葉大常葉を三たび下し、2年ぶりの4強入りしたい。今年のチームは例年のような特筆した選手がいる訳でもないが、県新人5位・県総体4位と県トップレベルの地位を維持する様子を見ると各々選手が実直に役割を果たしその成果がこの成績に結実しているように思える。8月の皇后杯県予選にも出場、静岡大学に敗れたものの、最終的に東海出場を決めた大学生相手に8点差のゲームをしたことは自信につながったに違いない。

「全員がエース」の中で私は**守山ひかり**を評価し今回プログラムの表紙に抜擢した。司令塔としての的確なパスやパスラン後に大きくスイングしてからのミートシュート、全体を掌握した上での冷静な声かけなど長所を取り上げれば紙面が尽きる選手であるが、最大の持ち味は内外からの得点力、浜松南戦では突き放されそうな展開になる前に肝心な所で得点を重ね3P3本を含む19得点を稼いだ。170cm **太田綾夢**は闘志みなぎる選手、跳躍力を生かしたゴール下のパワープレーも特色で卓越したボールハンドリングを駆使した1on1への仕掛けもうまく、静大戦でもチーム最高の17得点を挙げた。**森本幸加**は東海国スポ選手にも選ばれた1年生、途中出場した静大戦でも自らフリーを作り出し3P2本を決めた。その他にも長身選手にはあまり見られない惚れ惚れするようなボディバランスで3Pを決める170cm **田開瑚生**、171cmの恵まれた身長でゴール下でのリバウンドを拾い好機生み出す**荒井香実**、浜松南戦で途中出場ながら3P2本を含む15得点を挙げ静岡大学戦ではスタメン出場も果たした170cm **本間輝星**、そして上手の手から水も漏らさない泥臭いディフェンスが取り柄の**高柳亜知葉**など、テクニックもさることながら地味なプレーを懸命かつひたむきに実践する選手が揃う。チームの代名詞・高さも健在、浜松開誠館に迫る平均身長165.1cm、新校名初年度の記念すべき年にメインコートで試合をすべく、浜松聖星そして常葉大常葉を連破する。

常葉大常葉は県総体で市立沼津とのシーソーゲームを制し県5位を確保、準優勝した令和3年のウインター県予選以来の県ベスト4も見えてきた。**佐野恵子**監督就任3回目の秋、まずは3年ぶりの県武道館に帰還し、浜松興誠に勝って4年ぶりのメインコートを踏みたい。

中心となるのは県内最高身長177cm **河島唯奈**。とにかくゴール下の存在感は随一、リバウンドの位置取りとマークマンへの体の寄せ方・当て方も天下一品、多少強引ながらも行けると判断したときはそのままシュートまで結びつけるゴール下の大黒柱である。**池田愛央衣**は外から中への橋渡しがうまく、繋ぎ役に徹した黒子の存在、ディフェンス面でも常葉伝統の重心を低くして腕を突き出し素早いステップで相手に寄っていく基本に忠実な姿勢でチームの窮地を幾度となく救ってきた。司令塔は**堀田明里**、この選手のガードとしてのポテンシャルは前川(浜松開誠館)に次ぐ高いレベルを持ち、来年のこの大会では1,2を争う注目選手になる予感がする。巧みなボールハンドリングもさることながら、仲間を信頼するがゆえに瞬時に繰り出されるノーブルックパス、ディフェンスではマークマンをコールし必要に応じてスイッチを仕掛ける天才的プレーヤー、今大会はその成長を、来年はその完成度を見てみたい選手である。ルーキー・**池田千穂**を県総体で見ても驚いた方も多はず、全試合スタメン出場、得点に絡む点だけでなく1年生とは思えない巧みなテクニックで観客を魅了、パス裁きやヘルプディフェンス、ディナイの寄りなど多彩な引き出しを持つ選手、こちらは2年先が楽しみな選手である。その他にも、ドライブ・3Pがともに冴え、市立沼津戦で熱戦に終止符を打つ最後のシュートも決めた**佐野梨帆**、市立沼津戦で途中

出場して得点を決めた**佐野麻帆**、静岡市選抜にも選ばれた 1 年生**名倉咲奈**・**三田優里愛**など 1 年先・2 年先をも見据えた世代間のバランスが取れたラインナップで浜松興誠相手に「三度目の正直」を果たしたい。

県総体ベスト 16 の**浜松聖星**は 4 回戦で浜松興誠と対戦する。西部新人・西部総体とともに敗れた相手に何とか一矢を報いるべく戦いに挑む。エース・**長谷川万桜**は大会屈指の注目選手、対角から切れ込む対人の強さと俊敏なブレイク、ミートしてから体の軸をぶらすことなく丁寧かつ正確に決めるシュートなどが一級品、プログラムの裏表紙を飾っても何ら不思議のない華のある選手、県総体・常葉大常葉戦でも 28 得点、油断するとこの選手一人にやられてしまうこともある。**中西杏奈**は完成度の高い個人技が魅力、高水準のスキルをベースにオールラウンダー・クラッチシューターという言葉がよく似合う**森美希奈**、3P シューター**深間菜月**などの 3 年生に加え、実績のある下級生**神谷安瑠**・**富永悠香**・**鈴木杏奈**・**高澤詩織**など上位でも十分戦える戦力で 2 年ぶりの県武道館、そして一気にメインコートも狙う。

その他の注目選手として、**高部咲希**・**袴田千愛**・**高橋侑加**・**古栃ふた葉**・**ワネケジナディア羽樹**(浜松学院興誠)、**菅瑞穂**(静岡農業)、**石川朔妃奈**(常葉大橋)、**伴野花音**・**辻木葉**(静岡西)、**稲森光華**・**望月葵衣**・**黒田琴葉**・**塩坂彩菜**・**栗田恋羽**(静岡大成)、**二宮ひなの**・**高橋十藍子**・**野入ひな**・**原優花**(常葉大常葉)、**白幡想**・**薫科芭乃**・**片岡侑希**・**伊藤瑠花**・**北川ひより**(島田商業)、**内山季依**(桐陽)、**秋山心**・**田形はる**・**根緒美来乃**(日大三島)、**池谷璃子**・**久保田未瑠**・**鈴木花音**・**大谷歩南**(浜松日体)、**大平陽菜乃**・**錦戸あいら**・**今井和花**・**三次咲妃**(掛川東)、**齋藤杏濤**・**加部環**(沼津東)、**前田夕澄**・**遠藤ひまわり**・**小塚愛莉**・**渡邊真歩**(伊豆中央)、**岡本ひらら**(韮山)、**神村優衣**・**牧野汐栞**(浜松西)、**福和夏蓮**(沼津城北)、**渡邊陽南乃**(富士市立)などを挙げたい。

右上のブロックは、昨年この大会で準優勝、県新人でも準優勝を果たして東海新人にも初出場、県総体では浜松興誠に競り勝ち 38 年ぶりに出場した東海総体でも勝利を飾った浜松南と昨年 3 位、県新人でも 3 位になった市立沼津が準々決勝で対戦する可能性が濃厚である。両雄はともに東海新人ベスト 8、昨年は準決勝で対戦し浜松南が第 4Q に 14 点差を大逆転して決勝に駒を進めた。浜松南が 2 点差で勝った県新人以来の対戦、勝てば両チームともに県新人で勝利を挙げながらも県総体で苦杯を舐めた東海大翔洋との対戦が待ち受ける。まずはお互いライバルに勝って県総体のリベンジに挑み、常勝女王への挑戦権を手にした。ただ、両チームともそのためには県新人とともにベスト 8 入りした静岡東・静岡商業にきちんと勝たなければならない。

浜松南は昨年準決勝で市立沼津に神がかり的な大逆転劇を演じ最終的に準優勝、県新人も食らいつく東海大翔洋を振り切り準優勝、初出場した東海新人でも勝利を挙げた。続く県総体では準決勝で東海大翔洋の返り討ちに遭いながらも堂々の 3 位、東海総体でもベスト 8 入りした。今や翔洋とともに浜松興誠館の連覇を止める最右翼と言える。

近年公立高校としては珍しく 3 年生が残るケースが多く今回も 4 人が残った。**萩原静音**は昨年準優勝の立役者、その活躍は 1 年たった今でも色あせることはない。攻守時ともにゴール下で相手に接触を試み、その駆け引きの中でボールを奪える状況に身を置いて得点を導き出す職人肌、この選手だけに注目して試合を見てもバスケットの醍醐味が伝わってくるまさにバスケの申し子である。**藤田結依花**は途中出場する場面が多かったが、いざコートに立つと気合十分の表情で真摯にバスケに向き合い、チームの雰囲気が一変するムードメーカー、球際の粘り強さと泥臭さで勝利に貢献する。**鷹野瑠美**は県新人決勝リーグ 3 試合で伝説の 73 得点、今回もリーグ戦を

使って調整し大会初戦に照準を合わせて調子を上げてくるはず、東海総体を決めた試合でドライブ・3Pで17得点、一度火が付いたら止められないこの選手を他チームがどのようにして止めに來るのかも興味深い。国体にも出場した**新林芽依**は安定感の塊、スティールや相手のターンオーバーを誘発する守備でスコアシートだけでは判断できない貢献度がある。下級生に目を移せば、東海総体2試合で25得点、ゴール下まで積極的に切れ込む姿勢に好感が生まれる172cm・**相澤彩乃**、東海を決めた浜松興誠戦でも3P3本、全国屈指の強豪・岐阜女子戦でも同じく3P3本を決めるなどどんな試合でも18番の3Pを決めきるアウトサイドの魔術師・**金森柚妃**、チーム最高身長174cmで相澤のフォローをしながら出番を待つ**鈴木華蓮**、そして主将として東海国スポにも出場、司令塔として全試合スタメン、ボール運びをしながら指示を出しインサイドに合わせるパスや長距離砲、各県の意地と誇りをかけた3試合で3P4本を含む22得点を挙げた**金子莉央**など東海2勝に裏打ちされた正真正銘の戦力を誇る。まずは昨年この大会と県新人で共に2点差で勝利を挙げた市立沼津に快勝し、県総体では1度も追いつけずに敗れた東海大翔洋との決着戦を制し2年連続で決勝の舞台まで辿り着き、40年ぶりの優勝に王手を掛けたい。

市立沼津は県総体では県新人で勝った東海大翔洋に不覚を取り、5位決定戦でも大接戦の末常葉大常葉に敗れ6位、その悔しさをバネに背水の陣で今大会に臨む。代々脈々と受け継がれる鉄壁のディフェンスに加えて県内トップレベル平均身長164cmが示す通り高さがありながらも足を使ったスピードバスケも展開、全員がリバウンドに絡む完成度が高いバスケが特色である。

エースは昨年来先輩選手の熱い薫陶を受けながらバスケIQをさらに高めた**野田志**。171cmの長身を生かしたプレーもさることながら、ボール運び・トリッキーなステップ・3Pなどプレーの一挙手一投足に華があり、それかチームに好循環を与える万能選手である。昨年国スポ3位の実績が自信につながりプレーに重厚感が増した**米内心菜**は試合中に溢れ出る気迫と気持ちが素晴らしくどんな屈強にあっても強い気持ちで攻守ともに体を張ったプレーでチームを牽引、時には自己犠牲をしてでもチームの勝利を第一に考える模範的な選手、その中でもブラインドエリアでディフェンスの死角へ回り込みノーマークを作り出して得点チャンスを導き出すプレーには一日の長がある。怪我に苦しみ続けた173cm**上原美桜**は県総体では2試合スタメン3試合で途中出場、復調の兆しを十分見せて、高い得点力とジャンプ力を生かしたリバウンドでチームを救う。スーパールーキー・**土橋莉空**は東部総体から一貫してスタメン、高校バスケの舞台でも十分通用するだけのプレーを見せてくれた。東海国スポにも出場し、途中出場ながらボール運びと堅実なディフェンスでチームに貢献、この大会を通じて攻撃面でもさらなる成長を期待したい。その他、東海国スポにも出場し得点を挙げた**塩川環菜**、県新人決勝リーグ3試合で53得点を挙げた勝負強さとファンダメンタルなスキルが光る**岩田真奈**、長身を生かしたドライブが魅力・170cm**岩川恵里花**、1年生ながら県総体上位戦で途中出場し、中学時代以上にハードワークを見せた県選抜選手・**杉山莉寿**など東海新人ベスト8は当然に感じる厚い戦力を誇る。まずは浜松南に積年の雪辱を果たしてメインコートで東海大翔洋にも借りを返したい。

静岡東も底力あるチーム、県新人は7位、県総体・浜松南戦では17点ビハインドで折り返した後半戦猛追を見せ、東海ベスト8を土俵際まで追い込んだ。最後は8点差で涙をのんだが浜松南の選手は点差以上に追い詰められた胸中だったに違いない。3年生が全員引退して新チームになったが、県総体スタメン・**伊藤葵**・**池田雛希**・**渡邊夏帆**の3人は2年生で楽しみな存在、2年ぶりの県武道館を目指し浜松南との再戦に挑む。

同じく県総体ベスト16**静岡商業**は昨年ノーシードで一気に9年ぶりの県武道館、県新人もベ

スト8、県上位が続くチームである。ゴール下で持ち味を発揮する176cm **長谷川海尋**はリバウンドプレーだけでなく、オフボールでの面取りやスクリーン、そしてボールが空中にある時の献身的に続けるスクリーンアウトを高く評価したい選手、今回躊躇なくプログラム裏表紙に起用した。ツインタワーとなる175cm **小杉凜**との呼吸も抜群、外・中盤には**落合美雨・稲垣茉莉・堤坂みそら**とキャリアを積んだ3年生が陣取る。それをパスワークに秀でる**本間瑠夏**や長身171cm **清水姫花梨**が助ける陣容、当たり負けしない強固なディフェンスを徹底し、高さを生かしたプレーからブレイクにつなぐバスケットで今年のこの大会・県新人・県総体で敗れた市立沼津に「四度目の正直」で勝ち、2年連続県武道館でバスケットをしたい。

焼津中央は2年ぶりの単独出場を果たした。昨年は4校合同で出場、中部新人も4校合同、中部総体は焼津水産との合同で出場、8人の新入部員を迎えた今大会、単独での公式戦は昨年の中部総体以来となる。昨年来合同チームで腕を磨いてきた**小川芽依・平野紅杏**の上級生を中心に、単独チームとして価値ある1勝を目指す。

榛原・相良・島田樟誠は今回女子唯一の合同チーム。榛原4・相良2・島田樟誠4、計10選手の構成、**相良**は3年ぶりの出場、そして**島田樟誠**は今回男女通じて唯一の初出場校である。島田樟誠は平成22年に島田学園から校名変更、平成30年に共学となり今回女子部を創設、3年生3人と新入生1人で初の公式戦に臨む。スピードあるドライブが魅力の**川井麻湖**というエースを抱え、彼女のバスケに対する一意専心の姿勢は校内だけでなくチーム内にも波及効果を与える。榛原の中心選手は攻守に冴え渡るオールラウンダー**竹内奈々葉**、相良の**朝比奈小桃・青木萌衣**は男バス・マネとの「二足のわらじ」を履きながらの出場、ともに中学時代バスケ経験があり「昔取った杵柄(きねづか)」を生かして、合同練習に参加、平日は可能な範囲で男子の練習に混じって汗を流す。限られた時間での練習で培ったものを最大限に発揮し、昨年の4校合同に続く勝利、そして島田樟誠にとっては初勝利を目指す。

このブロックの**磐田東**にも注目したい。昨年、常葉大常葉(常葉学園)を37年に渡って指導して全国出場38回、ウインター予選優勝16回、高校の指導者としては県内で唯一全国制覇の経験を持ち、さらには全国総体・ウインターを共に制する二冠の偉業も達成した**小前宏史**が監督に就任、さらに今春次男の**小前利徳**がコーチに着任、父親の日体大同期生で大阪桐蔭を指揮し全国制覇の経験も持つ永井雅彦氏のもとで3年間帝王学を学び、今は指導者版親子鷹としてさらなる王道を勉強しながら選手を鍛え続ける。昨年は初戦敗退となったが徐々に「小前イズム」が浸透、西部総体では決勝Tに進出し県大会という第1段階の目標が見えてきた。高身長でありながらもランプレイが魅力の**松下月希乃**やまだまだ荒削りだが鍛え抜かれたジャンプ力を武器にゴール下の防波堤として役割を果たす**原田茜梨**などを中心に、リバウンドにこだわりブレイクを主体とした速いトランジションバスケ、そして小前イズムと言えば低い重心の「ステイロー」、新生・磐田東としての大会初勝利を目指す。

その他の注目選手として、**木内凜咲・松角悠苺・佐々有彩**(静岡市立)、**井邑心優・杉山奈南・澤口空・土屋惺愛**(静岡東)、**鈴木麻友・高野晴子・岩本有未・山下紗矢**(磐田南)、**植田亜湖・清水希・奥田倭未・竹ノ内杏優**(市立沼津)、**池上成実・文谷柚華**(静岡商業)、**大庭菜南美・志村柚芽**(袋井)、**鈴木楓花・佐藤あや香・樋口凜優・川上奈子・増井日南乃**(磐田北)、**河合柚衣・又平藍寧・鈴木さくら**(藤枝東)、**櫻井映那・増井紅葉・佐野星憐**(清水東)、**篠原由愛・太田寧織・日吉希心・秋田谷誇花・鈴木娃賀**(飛龍)、**藤倉琴音・木村瑠良**(加藤学園)、**渡邊真奈・菊地萌衣・**

渡邊怜奈(三島北), 渡邊珠莉(稲取), 佐竹珠寿(加藤学園暁秀), 内田希葉(榛原)などを挙げたい。

右下のブロックは、県総体準優勝・東海大静岡翔洋が戦力充実期にさしかかり、そのまま県武道館、そしてメインコートに辿り着く可能性が極めて高い。しかしながら大会を重ねるたびに順位を上げ続け、県総体では7位を勝ち取った藤枝順心の底力も侮れない。まずは昨年逃した県武道館に足を踏み入れ、中部総体で敗れた相手にどのようなバスケットを展開するのかに注目したい。

東海大静岡翔洋は長らく続く一強独走状態から久しぶりに現れた絶対的対抗馬、県新人で約9年間続いた浜松開誠館の県内連勝を165で止めた「御殿場の奇跡」や県総体準優勝の実績がより一層その高い評価に拍車をかけている。新人戦で逃した東海を総体で手中にした実力、皇后杯県予選では社会人チームにも勝利、今大会で再び浜松開誠館を倒し初の県制覇が見えてきた。

チームの大黒柱は河島(常葉)と並び県内最高身長177cm 稲葉叶。恵まれた体格でゴール下を支配、リバウンドだけでなくコートバランスを意識したオフボール時の位置取り、常に攻め気満々の積極姿勢、皇后杯・IGNIS戦で2本決めた3Pなど褒め上げれば紙幅がいくらあっても足りない。この選手のプレーを見て今すぐにも上位カテゴリーで即戦力として通用すると思った人も多いはずだが、東海国スポを見て私はそれが予感から確信に変わった。選ばれた種別は「成年」、しかもWリーグ経験者にまじって長時間出場し大活躍、成年カテゴリーに高校生が出場できるようになって7年目、県内でこれほど活躍した高校生はいなかった。会場で初めて見た方々が彼女が現役の高校生だと思った人は皆無のはず、滋賀国スポ出場を決めた岐阜県戦第1Q最終盤に決めたドリブルからのレイアップは圧巻、高校の舞台ではファウル以外では誰も止められないレベルにある。ウインター開幕直前に滋賀国スポに出場し県内高校生では男女通じて彼女一人しか経験できない静岡県の看板を背負って大学生・社会人選手とより高いレベルでバスケットをプレーするという名誉と実績を背負い、県武道館に堂々凱旋、前川(浜松開誠館)と並び今大会最も見るべき選手である。浜松開誠館戦・勝利の女神となった星合汐凧はゲームコントロール能力にたける司令塔、切れ味鋭いスキップパスやノールックが持ち味ではあるが彼女の本当の魅力は針の穴をも通すシュート力。私は今年も放送部夏期研修会で学校にお邪魔した際に練習を見たが、シュート練習でさまざまが角度で放たれるシュートがリングに吸い込まれるように次々とネットを揺らすのに驚き、この練習、この精度が彼女のバスケットを支えているかと確信した。皇后杯・静岡産業大学戦も23得点、大学生でも彼女の突破力を止めるのは容易ではない。北川怜奈は度胸満点に放つ3Pが特徴、県総体決勝でも3本決めるなど流れを一気に引き寄せる効果を持つ。東海総体・名経大高蔵戦でもリングに嫌われたものの果敢に空中戦を挑む意気を評価したい選手である。その高蔵戦で存在感を見せたのは173cm 山内楓。ほぼフル出場コートに立ち3P2本を含む10得点、試合で見せた高さを生かした個人技は十分東海レベルに達していた。皇后杯準決勝でも優勝したRIZE相手に19得点、まさに点取り屋である。森理桃子は「縁の下の力持ち」という表現が一番似つかわしいプレイヤー、数字に表れにくい面でもチームに貢献、県総体決勝でも彼女の負傷退場以降流れが開誠館に少しずつ傾くのを感じたほどチームにとって不可欠な存在である。以上の3年生を中心に、174cmの長身を利したパワープレーで稲葉がコートアウトしている時間帯を中心に試合をつなぐ多々良心優、皇后杯準決勝で3年生に混じってスタメン出場し得点も決めた1年生・原田由羽、その試合途中出場して3P2本を決めた1年生・河合咲音、そして皇后杯2試合でスタメン出場を果たしアウトサイドや中盤を任せられ新人離れたパス回しや絶妙なハンドリング、瞬時に切れ込むカッティングなどが目を見張り、プレッシャーがかかった3位決定戦でも終盤落ち着いてフリースロー5本を決めるなど未来の新ヒロイン誕生を強く予感

させた**原崎瀬風**などポジション・学年ともにバランスの取れた厚い選手層で危なげなく勝ち抜き、未踏であるメインコートに歩を進めるだけでなく勝利を挙げ、今年1勝1敗で決着戦となる大舞台で浜松開誠館の10連覇を阻止し初優勝、高校バスケット最高峰の大会に初出場という大願成就を遂げたい。

藤枝順心は指導力に定評があり前任の静岡西時代に三大大会すべてで県4強の経験がある**寺本真佐義**監督が昨秋就任後、着実に順位を上げついに4年ぶりの県武道館が見えてきた。学校は県武道館のすぐ東隣、それでも文字通り「近くて遠い県武道館」である。今回かつて3年連続プレーしたメインコートを一気に目指す。

残った3年生は3人、**大月耶奈実**は154cmの小柄ながらそのハンドを感じさせない伸び伸びとしたプレーが信条、ディフェンスに囲まれる前にチャンスを見極めて放つ3Pでチームの得点源となり、県総体・清水南戦でも勝負所での3P4本を決めた。168cm**宮住美桃**はさらなる相手大型選手とのリバウンド争いにも負けない「掴んだら離さない」姿勢が勝利を呼び込み、**武田美陽**は精神的支柱として選手を支える。下級生では県総体でスタメンに入った3人、典型的には先輩の大月に似て3Pを果敢に放つ**小池果寿**、167cmの身長を生かしてロングパスからのシュートやリバウンドショットを見せる**石田妃菜野**、昨年度U15県協会優秀選手、県総体・市立沼津戦でも先制点を決め、弱肉強食の高校バスケット界でも十分に通用する片鱗を見せた**松村晏奈**、チーム随一の長身171cm**岩崎珠絹**はエコパ決戦でも効果的に途中投入され、粗削りながらも自身の役割をよく理解したプレーを見せた。課題の1つであった高さは岩崎の加入で及第点が与えられた分、持ち前の1線での粘り強いディフェンスから2線・3線への連動へつなげるバスケットで6年ぶりのメインコートを目指す。

その注目選手として、**坪内杏香里・安間佳穂・元野日葵・鈴木麻由佳・松浦雫・小嶋悠香**(静岡)、**江川風・浅田海・依田愛巳・五十嵐小梅・春川姫香・岩田楓・金子未杏**(沼津中央)、**望月優那・小川心優・植阪晴愛・澤本真央・望月美彩希**(静岡女子)、**高橋和花・近藤莉愛・加藤栖那**(浜松東)、**杉本菜結・末益愛清・山本愛香**(浜松湖東)、**芹澤芙実香・芹沢天音・杉山未来・勝又小葉音・松尾もも・長澤鈴**(御殿場南)、**田名部桃風・山内葵**(東海大翔洋)、**八木向日葵・沖悠莉**(島田)、**中村ののか・原田りの・清水希・玉川冴・森下恋・荒川結月**(浜松商業)、**井上柑奈・水野珠花・村松果歩・渡邊小麦**(富士宮西)、**山本せり・漆畑幸音**(富士宮東)、**望月汐音**(富士宮北)、**片岡愛奈**(富士)、**石川涼音**(常葉大菊川)、**石橋咲歩**(浜松湖南)などを挙げたい。